

歯 車

河北町立西里小学校 学校便り

発行：校長 石澤友章

令和4年5月31日

nishizato



「1つ上になる」ということ

どの学年も1つ学年が上がってスタートした始業式から、約2ヶ月がたちました。学校全体のリーダーとしての6年生が、委員会活動を始め、学校にかかわる全ての行事の各場面で、リーダーとしての自覚に満ちた行動をしてくれています。特に、毎日のように1年生と遊んで関わりを深めている様子は、ほほえましい限りです（体力的には大変でしょうが）。そんな6年生の姿がお手本となっているのでしょう。他の学年でも、同じような光景が見られます。例えば、ついこの間までは最下級生だった2年生。体育や生活科で、1年生と一緒に活動するときには、まさに6年生さながらの「おにいさん、おねえさん」です。2年生なりに、下の子の面倒を見なくてはという意識が芽生え、顔つきまで変わることに驚きます。その他の学年にも、困っていたり、泣いていたたりする1年生をなだめたり、はげましたりと、誰に言われるでもなくごく自然にその人を思いやって行動する姿がたくさん見られます。自然な形の支え合いが見られる学校風土。これこそ、西里小の強みの1つだと感じます。昨今、群れをなして遊ばなくなった子どもたちは、地域における自然発生的な遊び集団が持っていた「上の年齢の者が下の年齢



縦割り清掃活動の一コマ

の者に生活の知恵や伝承的な遊びの仕方などを伝え、下の者は遊びの中でそれらを自然に学ぶ」という素朴な社会化機能が希薄になり、支え合いの中で育まれる人間関係を失いがちとされています。そのような時代だからこそ、学校における縦割り活動や、上級生によるお世話活動などの、多様な交流は社会性を育成することに効果があり、ますますその必要性は高まっていると言えます。子どもたちが「自分ごと」として、「自分から」取り組む、子ども同士の支え合い活動（ピア・サポート）を一層大切にしていきたいと思います。



2年生が引率した1年生の学校探検

第1回 「学校運営協議会」が開催されました

5月19日（木）に第1回目の「学校運営協議会」を開催し、新しい委員の方々と今年度の学校経営方針をもとにした意見交換を行いました。授業通覧も行い、新しい機器も活用しながら主体的に学ぶ子どもたちの様子をたくさんほめていただきました。ICT活用と体験的な学びのバランスを大切に、自信を持って未来を生きられるよう、子どもたちの自己肯定感を高めていくことが確認されました。

学校運営協議会委員の皆様をご紹介します（敬称略）

会 長 森 健一（元西里小PTA会長）

副会長 上村 輝雄（西里地区区長代表）

委 員 岡崎 学（西里小PTA会長）

委 員 高橋 一敏（西里改善センター館長）

委 員 後藤登美夫（米作り体験指導者）

委 員 逸見 恭子（主任児童委員）

委 員 石澤 友章（西里小 校長）

事務局 清野 雅紀（西里小 教頭）

事務局 矢萩 由勝（西里小 教務主任）

事務局 宮地 裕子（地域コーディネーター）